

MACF 礼拝説教要旨

2022年11月6日

「雀と髪の毛」

ルカによる福音書 12章

12:4 「友人であるあなたがたに言うておく。

体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。

12:5 だれを恐れるべきか、教えよう。

それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。

そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい。

12:6 五羽の雀がニアサリオンで売られているではないか。

だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。

12:7 それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。

恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

* *

この前の節には「偽善についての警告」が語られています。今朝は、「恐るな」ということについてお話しします。

イエス様の弟子たちは、律法学者たちやファリサイ派の人たちからの嫌がらせに近いやりとりについて恐れを感じていました。

いわゆる社会的に権威を持っている人たちから狙われたら村八分のような状況も起こり得るからです。

彼らは人々を扇動できますし、裁判も自分たちの良いように決着をつけるだけの力も持っていました。

イエス様は自分の友人、仲間、弟子たちに対して「それらの人々を恐れるな」と語りました。

箴言 29:25 には「人は恐怖の罠にかかる。主を信頼する者は高い所に置かれる。」

新改訳聖書では「人を恐れるとわなにかかる。しかし【主】に信頼する者は守られる。」

と書かれています。

イエス様の「人を恐れるな」という言葉の裏付けが、この言葉の中に書かれています。

* 人への恐れ

私たちは、比較的簡単に人への恐れを持ってしまふことがあります。

一つには「権威を振りかざす人に対する怖さ」あるいは「人との比較」から引き起こされる恐れ。

イエス様は「恐れるな」と教えています。それは彼らの権威には「限界」があるし、彼らも

同じ人間であるだけのことだからということです。

命を取られることがあるとしても、そこまでしか出来ない相手なのです。

神様は、その先に至るまで、私たちを支えてくださるから、恐れという意識があるのであれば

人に恐怖を感じて縮み込むのではなく、むしろ「神様を恐れかしこむ」ことが大切なのだと

イエス様は語ります。

* 「雀」「髪の毛」

イエス様は、恐れるなと語った後で、こういう安心を得ることができるのだから、恐れるなという流れに話を進めます。

「雀」が例えで使われています。

「12:6 五羽の雀がニアサリオンで売られているではないか。だがその一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。」

1アサリオンは当時の1日の給料分の16分の1と言われています。

人々からは、全く相手にされていないような存在である「雀」

本当に安価で売られている「雀」

私は早朝、カワセミなどを撮りたくて川べりを歩いたりしていますが今まで「雀を狙って撮りたいんです」という人に出会ったことがありません。

どこにでもいる、あまり特徴がない、とにかく落ち着きがなくて撮りにくい、ということなどからでしょうか。

そういえば、片柳弘史神父が「すずめのなかまたち」というカレンダーを発売していますがこれは日本初の雀の日めくりカレンダーとのこと。それにイエス様のお話でも「5羽の雀」となっていますが、雀の個々の特徴などはわかりにくいですし、それぞれの名前を付けようと思っても、どの子が誰なのかわからなくなってしまうと思います。

でも、イエス様のお話では「神様は、そういう雀、一羽ずつ、ちゃんと覚えているのだ」

というのです。

社会の中でも仲間内でも全く目立たず、大勢の中の一人としてしか認識されないような

気持ちを感じている人は、きっと雀の一羽と同じような意味があるのだと思います。

誰にも気に留められることもなく、何を考え、何を感じているか誰も興味も持ってくれていないように感じている生き方、それはきっと「雀」の一羽と似ていると言えるかもしれません。

神様は、そういうあなたを知っておられ、あなたを決して忘れることはないですよとイエス様は教えているのです。

* 髪の毛の一本でさえ

しかし雀の例えで驚いていてはならないのです。

12:7 それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。

一羽の雀の存在感のなさ、どころか、それぞれの髪の毛一本一本についても神様は知っているのだというのです。

「人間の髪の毛は平均で10万本生えており、欧米人は日本人よりも本数が多く約15万本生えています。1本の髪の毛は、約150gの引張強度をもっています。日本人の髪は太く、欧米の人は細め。」とのこと。

個人差がありますが、数字は大体こういうことらしいです。

あなたの10万本の髪の毛の一本一本を知っているということはどんな意味があるのでしょうか。

それは、あなたの内側も外側も、あなたの存在の全てをすっかり神様はご存知だということです。ですから、神様はあなたのどんな状況に

あっても寄り添うことができ、あなたの必要を全てご存知なのです。

一羽の雀のような自分、髪の毛一本についても不安や心配に心を動かされてしまう自分。

神様は、そういう私たちを愛で包み込み、間違いなく、その時その時の必要に応じて寄り添ってくださいます。

恐れや不安を感じるたびに、思い出すべき例えだと思います。

「雀と髪の毛」

覚えておきたいですね。

ルカによる福音書 12章

12:6 五羽の雀が二アサリオンで売られているではないか。

だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。

12:7 それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。

恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

+++

MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/2DtJEeD88to>